

《ウニ君のつぶやき》 ふた粒



「猫が苦手」

これまで、たくさんの動物を飼ってきた。犬、インコ、金魚、カメ、カブトムシなどなど…。最近では烏骨鶏を10羽ほど。インドでは何も飼っていないのが不思議なくらい。まっ、勝手にヤモリがたくさん住みついているけれど。

犬を飼うきっかけは昔よくあったパターン。朝、登校してみると校庭に段ボールが置いてある。何だろうと覗いてみると箱の中で子犬が震えている。可愛さと可哀想さで思わず抱き上げたら最後、もうほうってはおけない。

放課後家に持って帰り、こわごわと母親に聞いてみる。「犬を拾ったんだけど、飼ってもいい…？」心臓がバクバク状態で応えを待っている。すると、「しっかりと世話ができるならいいわよ」という返事。あの時のうれしさは今でも忘れない。

しかし、これまで猫は飼ったことがない。特段、嫌いなわけではない。普通にさわられるし猫アレルギーもない、舌のザラザラ感も悪くない。たまたま猫を飼う機会がなかっただけかな。でも一度だけ痛い思い出がある。

あれは大学生の頃、よくお邪魔する友人宅の猫をいつも以上にかかったことがあった。その猫から言わせればいじめだったと思う。すると、その晩から扁桃腺が大きく腫れ、40度近くの熱が出たのである。私の想像だが、猫の毛が口に入り、のどにくっついて悪さをしたのではないかと思う。高熱にうなされながらおばあちゃんの言葉を思い出した。「猫はいじめてはいけないよ。バチが当たるから」まさにそのとおりだった。

それ以来、猫に触れるときは、「あの時はごめんね」と全く違う猫にあやまっている。おかげで、その後扁桃腺を大きく腫らすこともなくなった。当然ながら人間以外の動物もいじめてはいけないのである。必ずバチが当たる。

私は、1960年のねずみ年生まれ。実は生まれた時から猫が苦手なのである。

2015. 7. 18